

事案名	茅ヶ崎市の事案（神奈川県14-9）
分類	発見・被災・掃海等処理 現在の状況 その他
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『朝日新聞』昭和58年6月4日〔1〕 ・『神奈川新聞』昭和58年6月4日〔2〕 ・『毎日新聞』昭和58年6月4日〔3〕 ・『朝日新聞』昭和58年6月8日〔4〕 ・『神奈川新聞』昭和58年6月8日〔5〕 ・「海中投棄規制条約発効後の自衛隊による化学兵器の処理状況について」(防・防6.3.17)〔6〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔7〕 ・『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について(回答)平成15年10月23日〔8〕
資料内容概要	<p>神奈川県茅ヶ崎市には、昭和58年6月2日に学校敷地内の工事現場から催涙手投げ弾等が発見され、自衛隊によって処理が行われた事案がある。</p> <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和58年6月2日に、教育機関の施設新築工事現場掘削作業中に300発以上の手投げ弾らしいものが発見された。そのうちのガラス容器1個が割れて、作業員1人が手に軽いやけどをし、作業員2人が目に痛みを訴えた。同年6月3日に県警保安課と茅ヶ崎署は、缶は旧軍の青酸ガス手榴弾であると判断した〔1〕〔2〕〔3〕。しかし、同年6月7日に行われた自衛隊等の調査により、塩素系の催涙ガス手榴弾と断定され、同年6月2日からの累計で119個の塩素系の催涙ガス手榴弾と86個の小銃弾が発見された〔4〕〔5〕。同学校敷地は、昭和20年5月から4ヶ月間、旧海軍砲術学校になっていたため、催涙ガス手榴弾等はこのとき埋められたと見られる、と記載されている〔1〕〔2〕。 ・神奈川県警本部長の要請で出動した自衛隊は、昭和58年6月2日に発見された催涙手投げ弾等109発を同月8日に演習場で晒粉乳液により除染した〔6〕〔7〕。 <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在は、鉄筋4階建ての教育施設が建っていて、井戸水は飲用には利用していない〔8〕。 <p>その他情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧海軍砲術学校については、学校そのものが存在しないと記載されている〔8〕。